

食品に関するリスクコミュニケーション～輸入食品の安全確保などを中心とした食品安全への取り組みについて～
 (平成19年6月13日開催：松山市)
アンケート集計結果

参加人数 200名
 アンケート回答者数 151名 回答率 75.5%

Q1 ご自身について、ご回答ください。

1 性別		
1 男性	64	(42.4%)
2 女性	84	(55.6%)
2 年齢		
1 ～19歳	0	(0.0%)
2 20歳代	10	(6.6%)
3 30歳代	29	(19.2%)
4 40歳代	33	(21.9%)
5 50歳代	42	(27.8%)
6 60歳代	22	(14.6%)
7 70歳～	14	(9.3%)
3 ご所属		
1 消費者(団体を含む)	59	(39.1%)
2 生産者	2	(1.3%)
3 製造・加工業	23	(15.2%)
4 流通・販売業	12	(8.0%)
5 報道関係者	0	(0.0%)
6 行政関係者(独法含む)	40	(26.5%)
7 その他	13	(8.6%)
4 本日参加された目的		
1 食品の安全性の問題に関心があるため	96	(63.6%)
2 国における食品安全確保に関する取組を知るため	78	(51.7%)
3 輸入食品の安全性確保について知るため	90	(59.6%)
4 パネリストや参加者の意見を聴くため	35	(23.2%)
5 意見・要望を述べるため	2	(1.3%)
6 その他	7	(4.6%)

Q2 本日のリスクコミュニケーションの実施について、何でお知りになりましたか。

1 新聞	7	(4.6%)
2 ラジオ	0	(0.0%)
3 雑誌、情報誌、自治体広報紙等	7	(4.6%)
4 ポスター又はちらし	1	(0.7%)
5 ホームページ	10	(6.6%)
6 所属団体からの連絡	106	(70.2%)
7 その他	25	(16.6%)

Q3 演者からの説明についてお伺いします。説明内容について、十分に理解することができましたか

1 できた	22	(14.6%)
2 おおむねできた	101	(66.9%)
3 あまりできなかった	23	(15.2%)
4 できなかった	1	(0.7%)

SQ1 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て)

1 用語など内容が理解しにくい。	3
2 説明資料が見にくい。	4
3 説明が聞き取りにくい。	25
4 自分が理解していることとは異なる説明である。	0
5 その他	15

Q4 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。パネルディスカッション・意見交換での議論の内容等について理解できましたか?

1 できた	24	(15.9%)
2 おおむねできた	97	(64.2%)
3 あまりできなかった	10	(6.6%)
4 できなかった	3	(2.0%)

SQ1 十分に理解することができなかった理由は何ですか(当てはまるもの全て)

1 用語など発言の内容が理解しにくい。	2
2 発言が聞き取りにくい。	14
3 その他	6

Q5 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。パネルディスカッション・意見交換において、自分とは異なる見

1 あった	44	(29.1%)
2 なかった	81	(53.6%)

SQ1 異なる見解の発言の趣旨は理解することができましたか。

1 できた	7
2 おおむねできた	30

3	あまりできなかった	13
4	できなかった	5
SQ2 発言の趣旨が十分に理解することができなかった理由は何ですか。		
1	そのような見解に立つことが信じられない。	7
2	そのような見解に立つ理由が述べられていなかった。	5
3	その他	7

Q6 以下の設問について、【意見交換会に参加する前】、【意見交換会に参加して】で当てはまるものを1つずつ選んでください

1. 検疫所における輸入食品の監視について

【意見交換会に参加する前】

1	内容も含めて知っていた	28	(18.5%)
2	検疫所で実施していることは知っていた	94	(62.3%)
3	知らなかった	16	(10.6%)

【意見交換会に参加して】

1	理解が深まった	105	(69.5%)
2	変化なし	22	(14.6%)

2. 輸入食品の安全性について

【意見交換会に参加する前】

1	かなり不安	33	(21.9%)
2	やや不安	62	(41.1%)
3	安心	14	(9.3%)
4	どちらともいえない	28	(18.5%)

【意見交換会に参加して】

1	以前より安心感が高まった	52	(34.4%)
2	変化なし	67	(44.4%)
3	以前より不安になった	12	(8.0%)

SQ1 (Q6 2の【意見交換会に参加して】で「3」以前より不安になった」と回答した方)

どのような点が不安になりましたか。

不安なものは買わない、食べない。消費者の自己責任の部分も大きいのでは(国としては言い難いかも)。そのためには、国・県等の正確かつ迅速な情報提供が必至。

少ない人数で大変なお仕事とは思いますが、私達消費者が安心して生活できるよう、重ねて努力していただきたいと思いました。本日はありがとうございました。

公的な機関での継続的な検査自体に不安を感じました。

もっとわかるように、はっきり発言・発音して下さい。

検査が十分でないと感じた。

全てのものに対して、検査してないから。

知らなかったことを情報としてパネルディスカッションにより知った。

輸入食品等の検査違反状況等を見て監視される方が手抜きをすれば、私達は全く自分で危険性を知ることができないので、絶対にきちんとした検査監視を望みます。

現実として違反食品が流通している事例がみられる。

0.1%の違反しか見つけられないことへの不安

例えば、残留農薬などが入っていても、知らなければいいのでしょうか。自国・自県さえ安全であれば、という考え方が見え、不安を覚えました。

ニュースで輸入牛肉の検査が緩和されると聞いたため。今までしているものを、どうして緩和しようとするのか理解できない。コストがかかるなどは、国として国民の安全を考えるのであれば、全く理由にならないと思う。牛肉に限らず、安全な・・・という商品はブランド化のようになって価格が高くなっている。地産地消というなら、価格を輸入食品と近づけるよう努力して欲しい。仕方なく輸入食品を購入しているのが、現実です。

検査により違反を発見できない可能性があるのではないかと感じた。

予想以上に輸入食品は安全でないことがわかったから。少人数で、少数しか検疫しておらず、不安が増した。

検疫所のモニタリングが数が増加して大変になっている。

Q7 厚生労働省のホームページにおいて、輸入食品監視指導計画、関係通知、違反事例等を掲載している「輸入食品監視業務ホームページ」があることをご存じでしたか。

1	利用したことがある	32	(21.2%)
2	知っているが利用したことはない	31	(20.5%)
3	知らない	59	(39.1%)

Q8 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

1)良かったと思う点

消費者の立場では、店頭が上がっている食品、特に生物は毎日食べているものが多く、できるだけ安心な食材をと、県内産、国産を選んでしたが、輸入食品も、二重、三重の検査で安全であることがよく分かった。

検疫所の監視についての、具体的内容。

特になし。

消費者に説明することは大切である。

いろんな意見がでて、勉強になりました。

パネルディスカッションで立場の異なる人の意見が聞けた。厚生労働省の考え方がよく分かった。

専門家よりも消費者の方々の質問が多かったので、良かったと思います。

いろいろな知識を得ることができた。

パネリスト各々しっかりした方で、意見がわかりやすかった。

輸入食品(中国)に関しては、厚生労働省を中心に検査に努力して下さっているのがよくわかった。

消費者団体会長井谷の話が身近で解り易かった。

行政の対応はしっかりしていると感じたので安心です。

不安な点が少しずつは解消できるように感じた。

初めて参加したので、とても勉強になった。これからは興味を持って話や新聞、テレビなどで、自分なりに考えられる。

輸入食品の監視の内容がよくわかり、検疫所の内容もわかり、聞くことができてよかった。

中国からの輸入品は信用できないと常々思っており、話を聞くことが出来良かった。

新しいデータを知ることが出来た。

必要以上不安になることはないと思った。

パネリストの選任が良かった。

輸入食品の監視等、消費者が知らない部分(見えない部分)が知れたことは良かったと思います。

検疫所の機能がよくわかりました。ご苦労様です。

検疫所の業務の流れが理解しやすかった。

いろんな見解が聞けて、良かった。

具体的に食品添加物の種類と今現在よくつかわれている種類が知りたかった。

良い内容だと思われる。

検疫所などの内容について知らないことを知ることができた。スクリーンが大きく見やすかった。

会場に大きく画面(スクリーン)がでて、よくわかった。ただ、説明の言葉が小さかったのが、残念でした。

輸入食品の検査体制などについて解った。違反が出たときの回収等が解って良かった。

消費者団体の意見に同調できる。

マスコミを通じてではなく、生の声が聞けた点。

各専門家の方の話が聞けたこと。

中林参事官の話す内容がわかりやすかった。質問内容を一度、分かりやすくまとめて聞き返していたので。花房次長の話も大変おもしろかったです。

詳しい内容まで理解することができた。また、質問に対する回答が的確で分かりやすかった。

自由な意見が出た。

難しい内容だったが、図表や写真を見ながらなので、スムーズに話を聞くことができた。

全体に簡単な言葉で説明されていたこと。

それぞれの意見が聞けて良かった。

業務に関連する「検疫所における輸入食品の監視について」が参考になった。

パワーポイントでわかりやすく、スライドが良かった。

2)改善すべきと思う点

パネラーに生産者、製造・加工業者もいるべきではないか。もう少し時間がいるかもしれませんが。

消費者に限らず、販売元、国、県、市、すべてが安全な生活を送れるよう努力していることが良くわかった。そのことを納得できるよう、ディスカッションの時間をもう少しとってほしいと思う。

時間の割り振り。

できる限り、時間は守ってほしいです。昨年も時間が遅くなったように思いましたが・・・。

パネリストに食品安全委員会や輸入食品の安全性について研究している大学等の出席が必要(今回のテーマでは、幅広い知見からの回答が必要)。

時間が長すぎる(ずれ込み)。消費者は輸入食品の安全確保の取り組み等説明しても、納得していない。

もう少し大きな声で講演してほしい。

本題に絞った進行にしてほしい。パネリストでは、輸入業者等、直接かかわる方に参加してもらい、行政側は、補佐的にアドバイスしていくようにしてほしい。

行政のパネリストが多かったので、次回からは、製造の立場の方も用意してほしいと思う。

単調な説明で聞き取りにくい。もっと工夫してほしい。資料の説明にメリハリをつけてほしい。議事の進行にも留意して時間を守ってほしい。意見交換が不十分になってしまうので、前半の進め方、資料の提示の仕方、説明の仕方等ポイントを絞ってほしい。

時間が30分も延長されたことについては、熱心にお話をいただいたことで許せましたが、会後の予定もあるので、できれば10分程度延長で抑えていただきたい。

いかに早く情報を取り入れることを努力してもらっていることはわかるが、消費者に長期間食べられるものを提供する努力もしてほしい。

ディスカッション前の個々の説明が長く、ディスカッションの時間、意見交換の時間が十分に確保されていなかったのが残念です。異なる立場のディスカッションの時間を十分に確保していただきたいと考えます。

説明の仕方(棒読みが多く、わかりにくい)。

質問側の方も程度勉強しないといけないと感じました(参加する側の問題)。中林様もまとめるのが大変だったように感じました。

資料の確認はきちんとしてほしい。できれば、不足の資料がほしいと思う。

配布している資料にミスプリント(ページ飛ばし)があるのは、事前確認不足。

事務局はスムーズに進行してほしい。

もっと大きな声で説明してほしい。時間内で済むと思う内容のものであるのに、時間が長くなった。

資料の不備は、HPでも確認できるが、できない人もいますので、再配布すべきでないか。

「パネルディスカッション」について。

リスクにある危機感が、検査する立場の人から感じない。安心であることをアピールしているように感じた。

時間配分。パネルディスカッション。パネラーが1回発言しただけで、パネラー同士の意見交換・交流がありません。フロアからの発言にまとまりがなさすぎ。発言テーマを絞った方がいいです。

タイムキーブがややルーズでした。

もう少しまとめて発表した方がいい。

製造者からも意見がでたら良い。

企業や行政側の押しつけで、何ら消費者の立場においてこないところ。時間は守ってほしい。この説明会が、良かった、悪かったではなく、この説明会で何を一般に広めていくことが必要なのかということがわからなかった。

消費者の立場としては、質疑応答の時間を多くしてほしい。

資料を全てそのまま説明しなくても、大切なところのみにして、意見交換の時間を長くしてほしいと思う。

もう少しディスカッションの時間があれば良かった。色々な方の意見を聞いてみたかった。

配付する資料については、きちんとチェックをして、きちんとしたものをいただきました。

いきなり紙を読むのはパネルディスカッションではない。もう少し参加者の反応をみて、話せる人を選んでほしい。

会場は大変立派なところでしたが、冷房が寒くて、省エネへの配慮も必要なのではないでしょうか。

パネルディスカッションに製造業者、輸入業者を入れて、自社の取り組み等の意見を出すべきではないか。

両面コピーができていなかった。たくさんのコピーを行うのに、無駄になったらもったいない。

消費者、メーカー売り手、行政のそれぞれの安心・安全への考え方、取り組みについて、話を聞きたい。メーカーの人間としては、安心を担保するために、それが価格に跳ね返ることを、消費者はどう思うのかを聞きたい。行政の食品リスクへの取り組みは十分理解できる。大事なことは、安心・安全なものを輸入する(食べる)ということは、コストがかかることではないのかと思う。低価格志向の世の中、消費者は安価なものを好み、流通はメーカーからの値下げを望み、結果としては、「ものづくり上のコストダウンをしなければならない」。そうすると、粗悪品であっても輸入しなければならないかと思う。要は、安心・安全なものには、お金がかかるので、行政の努力、作り手の努力はもちろん、買い手の理解(価格への跳ね返し)と知識レベルの底上げが必要かと思いますが…。

質問の内容がわかりにくい。

Q9 その他、今回のリスクコミュニケーションについて、お気づきの点がありましたら記入願います。

説明は聞こえづらく、理解しにくいものでしたが、配布された資料を基に分らなかつた項目については自分で調べようと思いました。中林氏の資料について、偶数ページの欠落というミスはありません。非常に不快。相手の立場になって資料を作るのが基本です。パネルディスカッションの質疑応答の中で、各団体(県、市、検疫所、スーパー)の取り組みがありました。違反検体が出そうな時、土日も出勤して、検疫所の課長さんが対応したというコメントがありました。それは当たり前です。休みを完全に休んでいるのは、公務員だけです。このような恥ずかしいコメントをするようでは、余計に不安になります。少し感覚が鈍いのではないのでしょうか。

今後もこのような機会を作っていただきたい。

せっかくこういう機会を設定して下さるのなら、皆さんの費用でもっと成果のあるものにしてほしい。説明していこうという姿勢は少しは分かるけどー。

進行・運用の不手際が解消された。

・地産地消をモットーとして、外国産(輸入されたもの)をまず口にしないようにしようと自分に決めています。でも良く使うゴマは(外国産 多分中国の国産)の表示がない方がいい。「牛乳は飲まない方がいい」の質問の方へ。昨年8月インドに行った時、この話題が新聞にとりあげられていました。そのとき日本では話題になっていなかったと、帰国後聞きました。私は牛乳は百害あって一利なしと思っています。・女性質問者の方へ→次元が低いと思いませんか。違反率が高い? 満遍なくやったら、違反率低くなると思えられない。食品添加物→生産者の立場のお話面白かった! 豆腐AF2(トロン)。

質問に対しての回答は、質問者に向かって言うべきではないでしょうか。横を向いてのお答えは失礼。

参加者の食品添加物や残留農薬の関心の高いことに対し、十分答えができていない。

生産者側の代表も参加させれば良いと思う。

講演内容について、制度、法律等に関する説明が長く、少し理解しにくい部分があった。もう少し具体的に食生活、消費に結びつく形で説明があれば良かったのではないかと思います。休憩中にたばこの煙・においが会場内に充満していたので、改善が必要ではないでしょうか。

休日でも違反が出た場合、早急に対処したいいわれたが、それは言うまでもなく当然なこと。時間の問題であるので、早急な対応は当たり前。いろいろな意見があります。では何の答えにもならない。1つ1つきちんと厚生労働省の意見・考え方として答えてほしい。資料のミスは、ホームページで各自見るようにことは、いかにも役所仕事という感じがする。全てがそのような体制でまかり通っていることは普通ではない事をさどるべき。自分たちのミスは、参加者各自でフォローせよとはどういうことか??

事前の打ち合わせはされたと思いますが、時間の配分が守られていないのは、出席者にとって予定がありますので、考えてほしいと思う。

大切な取り組みで興味を持って参加したが、演者、特に厚生労働省の参事官の方の説明の聞き取りにくい箇所があり、少し残念だったと思う。こういう内容は、多くの方が不安になったり、興味をもっていることだと思うので、今後は県・市で多くの人に啓発して学習する場を設けてほしいと思う。

演者の二人とも説明が聞き取りにくく、理解がしにくく思いました。もう少し声も大きく、口を開けて。ぼそぼそとした声での説明ではダメ。ユーモアも少し入れてください。二人とも一生懸命だと思いますが、私どもには心に響きませんでした。でもいいお話を聞くことができ、良かったです。ありがとうございました。

ものすごい輸入量の食品に対して、現在の「監視体制」は不十分と思う。問題が出た度に輸入stopになるのは本当に困ります(現状はモニタリング検査をしているがその検体数をできるだけ増やしてほしい)。

丁寧に頂きましたが、時間配分にもっと気をつけてほしい。会場は立派過ぎる。業者提出の書類審査のみで許可されているものがほとんど聞いています。なお一層の抜き取り検査など実施して下さい。産地表示が義務付けられている生鮮食品でも、その表示が信頼できるものか疑っています。

消費者はもっと目を見開いて、情報に耳を傾けて今の消費生活を見直さなければいけないと思う。

牛乳が体に悪いという本が売れているとお話を聞きまして、それに対して、牛乳農家、業者、関係者等もっと反発して声を大きく安心を売ってほしいと思います。水が良く売れて、牛乳やジュースが売れないというのは、もっと売れる方の努力が必要だと思います。農家のやる気をなくします。

年金問題等が起きている中、お役所仕事に不安を感じ、疑いの目でしか見えなくなっているのが、本当に私達が信じられるような仕事をして欲しいです。

会場からの役割の質問は、事前質問とし、その他は、報告に関したことのみにしては?

0.1%の違反ということは、単純に人口で直すと、12万人は毎日リスクを負っていると考えられます。しかし、この結果というのは、検疫所のデータであって、日本国内産が必ずしも安全であるという考えは、リスクを考える立場の人が疑わないのは危険。農業生産者、消費者の感じている不安と温度差がある。残留農薬の分析項目を300以上に基準を定めるべきかと思う。100以上の項目を分析しても、検出されるわけがない。違反内容の説明を詳細に説明がない。トレーサブルがとれていない食品が多いので、安心が得られない。

資料はきちんと作っておいて下さい。

こういう機会は、どんどんとって欲しいです。言にくいこともどんどん出て、とても良かったと思う。

リスクコミュニケーションという言葉を知りました。

何を持って安心で、何を持って安全かという点を知りたかった。規制緩和をすればするほど、日本の自給率が減ってくることに、どうなのだろう。国は、厚生労働省と農林水産省と同じようなことをしているのに、違う部分でお金が落ちていく。お互いのすりあわせが必要だと思う。私達消費者も賢くならなければならない。井谷さんは消費者としての立場で話をしていたので、とても共感できた。国の説明は正しいけど、押しつけがましい。もう少し色々な省で交わっている内容の部分の説明が欲しい。ホームページのことをいつも話をされるけど、高齢者はこれが使えないので、だまされることが多い。健康食品などで、何十万、何百万とお金を使っている人をよく見かける地方ほど、これが多い。地方格差が大きいといつも感じます。

やはり輸入食品は不安感・不信任感がいっぱいです。安全・安心にむけて取り組んで欲しいものです。

これからも正確な情報をすぐに消費者に伝えて欲しいと思います。食品添加物についての、今回のリスクコミュニケーションを楽しみにしています。

質問にもあったが、偽化(科)学「買ってはいけない」の影響が大きい。思い込みがあるのだなあと感じた。たぶん、講演2つとパネルディスカッションは、時間的にムリだったかと思えます。消費者(というより消費者団体連絡協)は、「添加物」と「残留農薬」が目の敵で、厚生労働省の方が「普通の食品」のリスクがある、といっても理解されなかったと感じました。もう少し、理性的なパネラーを選んだ方が良いのでは。添加物=化学物質と思っている人(もちろんそれはそうだが)、ビタミンAとかB、糖も化学物質なのに…。質問を2つ、といって、4つも5つもいって、それをさえぎらないコーディネータ。

検疫に関わる人、予算とも増やさないと、食品の安全性は保つことができないと思った。

国・市町村・業者の方、消費者団体の生の声が聞けて良かったと思います。今度、ますます品目が増えることと思いますが、丁寧に1つ1つ検査していただき、早急に情報を流してもらい対処してほしいと思います。

冷房が効きすぎです。